

開館20周年特別企画展
生誕110年

田中一村展

幼少期から千葉時代、終焉の地・奄美へ、一村の全貌がここに終結

2018年
7月14日〔土〕—
9月17日〔月・祝〕

〔主 覧〕 公益財団法人佐川美術館
〔後 援〕 滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会、NHK大津放送局、NHK出羽、関西奄美会、中部奄美会
〔協賛〕 田中一村記念美術館、橋本結立美術館、奈良県立万葉文化館、千葉市美術館、とちぎ緑の街美術館
〔加 入〕 大島雄美術院、株式会社ジャパンヘルスユニット、スタジオ康作アイズ、野田西造株式会社、S Gホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

佐川美術館
SAGAWA ART MUSEUM



田中一村展

佐川美術館開館20周年特別企画展として、「生誕110年 田中一村展」を開催します。本年は田中一村(1908-1977)の生誕110年にもあたり、関西で10年ぶりとなる大規模な一村作品を観覧できるまたとない機会になります。田中一村は栃木に生まれ、幼少期より南画(中国の南宋画に由来する絵画)を描き、1926年に東京美術学校へ入学します。学校は2ヶ月で退学し、それ以降は特定の師にはつかず、独学で画家人生を歩み、千葉で20年間ひたすら写生に没頭します。そして、新しい創作への道を模索する中で、奄美大島へ渡り亜熱帯の植物や鳥などを題材にした日本画を描き、独自の画業を追い求めていきます。しかし、生前それらの作品を発表する機会もなく無名のままこの世を去ります。

本展では、生誕110年を迎える孤高の画家・田中一村の幼少期から青年期にかけての南画、南画との決別から新しい日本画への模索、そして琳派を彷彿とさせる奄美の情景を描いた作品まで、各時代の代表作を含む150点以上の作品により、彼の創作の軌跡と一村芸術の真髄に迫ります。

イベント情報

I. 記念対談

日時：7月14日(土) 14:00～

講師：大矢新音氏(本展監修者、美術評論家)

新山宏氏(田中一村甥、著作権継承者)

定員：100名(先着)

参加費：無料 ※入館料は必要

II. 記念講演会

日時：8月19日(日) 14:00～

講師：松尾知子氏(千葉市美術館上席学芸員)

定員：100名(先着)

参加費：無料 ※入館料は必要

内容が変更になる場合がございます。詳細につきましては、佐川美術館のホームページでご確認ください。

©2018 Hiroshi Niyama



1. (1926年)コオロギ 1921年夏 個人蔵 2. (複製) 蓮花 1928年5月 大島絵巻館蔵 3. (複製) 1948年8月 田中一村記念美術館蔵 4. アダムの海辺 1969年 個人蔵(千葉市美術館寄託) ※4は複製印刷：714～719
5. (四季草花図) (複製) 1959年代 大島絵巻館蔵 (田中一村記念美術館蔵)

おすすめアクセス方法

大阪・京都方面

JR 聖田駅からのバスの本数には限りがございます。JR 守山駅からのバスの時刻表など、詳しくは下記佐川美術館の番号までお問合せください。

	JR大阪駅	JR京都駅	JR山科駅	JR聖田駅	バス(江東交通)		JR大阪駅	JR京都駅	JR聖田駅	バス(江東交通)		
	8:42	→	9:18				8:00	→	8:29	→	9:06	9:26
平日	10:30	→	11:05	→	9:39	9:47	9:15	→	9:45	→	10:07	10:24
	11:30	→	12:05	→	11:35	11:45	10:15	→	10:45	→	11:04	11:25
	12:30	→	13:05	→	12:35	12:43	12:15	→	12:45	→	13:04	13:25
		→	13:11	→	13:35	13:55	13:15	→	13:45	→	14:04	14:25

8月14日から16日は土日祝ダイヤ

2018年3月17日改正

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、8月13日は開館

入館料	一般	高大生	中学生以下
	1,000円	600円	無料 ※要保護者同伴

アクセス

- 電車、バス、タクシーご利用の場合
- ① JR 聖田駅から江東交通バス 約15分
- ② JR 守山駅から近江鉄道バス 約35分
- タクシー利用で①約10分、②約25分
- お車ご利用の場合
- 名神高速道路栗東IC 約30分
- ※各所駐時間はいくまでも行わず

佐川美術館
SAGAWA ART MUSEUM
滋賀県守山市水保町北川2891
077-585-7800